

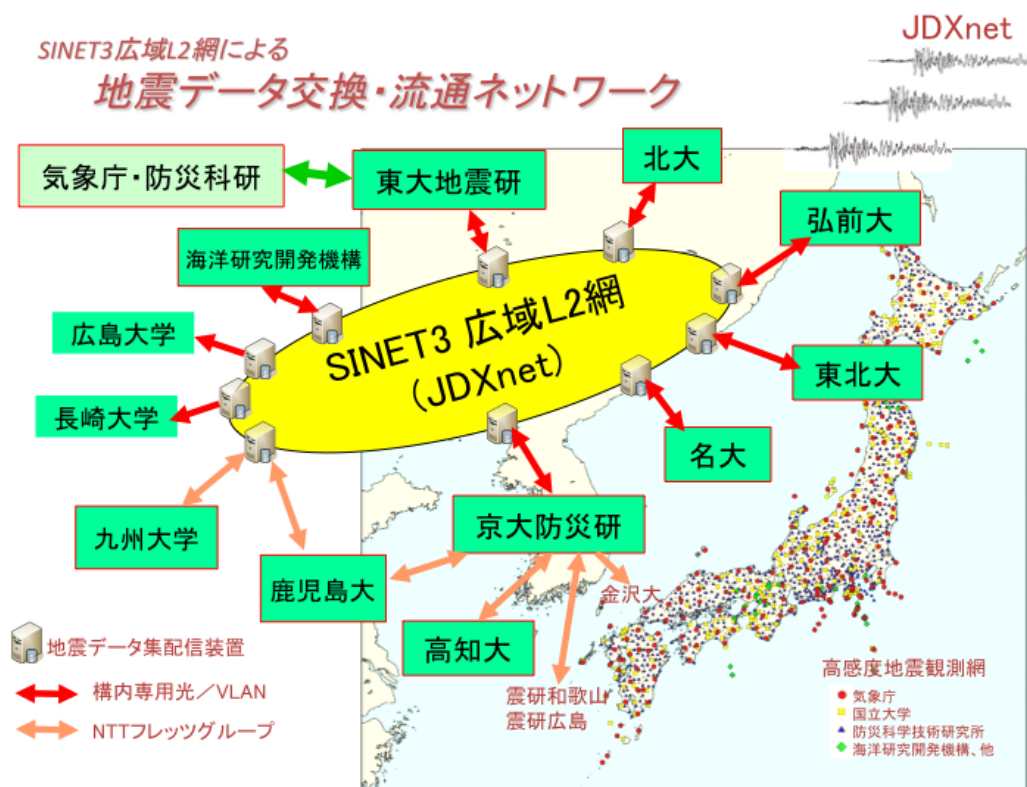
SINET3 における地震データ流通網 JDXnet の構成と運用

発表者 植平賢司（九州大学大学院理学研究院地震火山観測研究センター）

JDXnet（Japan Data eXchange network）とは全国の大学・研究機関が参加する単一ネットワーク上でリアルタイム地震波形データを共有するためのネットワークである。観測機関としては、気象庁、防災科学技術研究所、国立9大学（北大、弘前大、東北大、東大、名大、京大、高知大、九大、鹿大）、海洋研究開発機構、産総研などがあり、これらの計1200地点以上の観測点から、6200程度のチャンネル数で7Mbps前後のデータが生産されている。JDXnetではこれらのデータをそれぞれの観測機関及び受信機関にリアルタイムで流通させている。

JDXnetの構成は、SINET3・JGN2plus・TDX・NTT東西のフレッツ網・衛星ハブ局からなっており、SINET3はすべてのデータが流れるバックボーンネットワークとなっている。L2VPNサービスを利用しており100Mbpsの帯域を占有している。16ビットマスクの単一ブロードキャストドメインのIP網を構成しており、各機関1～数台の送受信マシンを接続している。データはこの網にブロードキャストされており、各機関はこの中から必要なチャンネルを取り込んでいる。

本発表では、地震観測点からどのようにデータがユーザの元に届けられているか、その中でSINET3がどのように利用されているのか報告を行う予定である。



鷹野・他（2008）